



はつかいちのバス事情

特集 未来へと走り続ける

総距離およそ157・2km。

これは、廿日市市を走るバス路線の長さです。生活を支える公共交通。

昭和40年代、全国で進む道路整備に合わせ、バス路線網も拡充されていきました。しかし現在、マイカー化と過疎化が進み、全国各地でバスや鉄道の路線の見直しや廃止が進んでいます。

こういった交通空白地帯を埋めるため、行政はコミュニティバスや自主運行のバス路線を走らせています。通学や通勤、普段の買い物など移動手段として欠かすことのできないバス。地域での住みやすさを考えるとき、公共交通はまちの財産となります。しかし一方で、利用者の減少に歯止めがかからない路線があるのも現状。今知ってほしい。今月は廿日市のバスの今とこれからを考えます。

バス路線の現状

廿日市市は平成15年の旧廿日市市と旧佐伯町および旧吉和村の合併、平成17年の旧大野町および旧宮島町との合併という2度の合併により、南は瀬戸内海に浮かぶ宮島から北は中国山地に位置する吉和までを市域とする広域な市となりました。そうした中、急速な少子高齢化の進展や人口減少、マイカー利用を前提とした生活スタイルの定着などにより、公共交通の利用は減少傾向にあります。

全国に目を向けてみると、都市圏を除く地方ではその傾向は顕著に現れ、平成18年度から平成25年度で廃止となった乗合バス路線の総距離は全国で11,160kmにも及びます。これは東京から沖縄まで直線距離で結んだ7.5倍の距離に換算されます。一方で、中山間部、島しょ部では高齢化が進み、マイカーを自由に利用できない高齢者、通学者などを中心に、公共交通の必要性は高まりつつあります。廿日市市人口動態から、今後この状況はさらに進む状況にあるなか、今の公共交通の利用が将来のまちづくりに関わっていきます。

全国で廃止になった乗合バス路線は、
(平成18～25年度) **11,160km**



コミュニティ・自主運行バス利用者の推移

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
廿日市さくらバス	138,826	139,084	140,662	122,593	85,008
おおのハートバス	188,107	187,006	186,647	184,434	193,790
佐伯・吉和自主運行※	15,021	12,659	9,356	10,203	9,586

※デマンド利用者を含む